

新オレンジプラン 七つの柱解説

認知症の高齢者の数は2002年の予想では2015年に250万人でした。しかし実際には、2012年で462万人と予想を遥かに超える人数でした。

昨年1月に認知症対策として新オレンジプランが発表され丸1年が経ちました。新オレンジプランの基本的な考え方は、「認知症の人の意思が尊重され、できる限り住み慣れた地域のよい環境で自分らしく暮らし続けることができる社会の実現を目指す。(厚労省)」となっております、七つの柱からできています。その主な内容をまとめてみました。

①認知症への理解を深めるための普及・啓発の推進

認知症のことを多くの人に知ってもらおうということで、学校教育や認知症サポーターの養成や認知症の人の姿を発信する活動をしましょう。

②認知症の容態に応じた適時・適切な医療・介護等の提供

早期診断・早期対応ができるよう医師の認知症への対応力の向上と、認知症サポート医の養成。

各市町村にケアパスの設置が決まりました。ケアパスとは認知症の進行状況や症状に合わせて適切なサービスが受けれる流れのことです。

③若年性認知症対策の強化

認知症は高齢者だけになるものではなく早ければ30代からなるものと理解しておきましょう。今後は相談窓口や就労支援も増えてくるでしょう。

④認知症の人の介護者への支援

介護者が相談したり愚痴を言い合えるような認知症カフェの設置などです。介護ロボットの開発も含まれています。

⑤認知症の人を含む高齢者に優しい地域づくりの推進

超高齢者社会の日本には認知症の有無に関わらず、高齢者の暮らしやすい環境や使いやすいアイテムの開発、公的サービスの整備が必要です。

⑥認知症の予防法、診断法、治療法、リハビリテーションモデル、介護モデル等の研究開発及びその成果の普及の推進

医学的になんとかできるように研究をしましょう。根治できるようになって欲しいですね。

⑦認知症の人やその家族の視点の重視

認知症の人やその家族が必要と感じていることについて調査を実施する予定になっています。

はなえくぼ江南 管理者

『昼食バイキング』

手探り状態で始めた月1回の取り組みですが、最近では、みんなで餃子を山ほど作って餃子パーティーをしたり、食パンをくり抜いたものでチーズフォンデュをしたり。職員のほうが楽しんでるみたいです。次は何が出てくるのか楽しみです。



『リーダー研修を受講して』

「リーダーとは何か」ユニット開設から5年弱、私が何度も悩んできた事柄です。

約半年という長いリーダー研修のなかで、働く施設は違えど同じ志を持つ仲間と出会いました。その中で印象深い言葉がありました。それは「施設というのはリーダー以上の良い施設にはなりません。ですが施設を作っているのはスタッフです。」という言葉です。

今までは利用者の方に目を向けていれば良いと思っていましたが、スタッフにも目を向ける重要性を学びました。スタッフとコミュニケーションを密に図り、より良い施設を作り上げていきたいと思えます。

最後に、私に文句を言わず付いてきてくれるスタッフには日々感謝しています。

はなえくぼ江南・北館 介護主任



『気持ちに寄り添う対応を』

こんなことがありました。夕方、息子が学校から帰ってくるから家に帰る、と言うAさん。すると職員が「なんでー、息子さんならもお会社に行って働いてるし結婚もして奥さんがいるじゃない。」「そーだっけかな。」と怪訝そうな顔をし「息子が帰ってくるから・・・」と続けるAさん。

Aさんは「学校から帰ってくる」と言っています。なのでAさんの頭の中では息子はまだ自立前の子供であると推測しなければなりません。子供が会社で働いたり結婚するなんてことはAさんには到底イメージできないでしょう。なのでAさんは職員が嘘を言っていると思ってしまいます。これを繰り返しているうちにAさんは職員のことを嘘つきと呼ぶようになってしまいます。

ご見学随時受付いたしております。お気軽にお問い合わせください。

今回は、はなえくぼ扶桑便りです。どうぞお楽しみに！



グループホームはなえくぼ扶桑
丹羽郡扶桑町大字柏森字辻田398
(0587) 91-0110

グループホームはなえくぼひくみ
犬山市大字五郎丸字郷瀬川17番地1
(0568) 68-8096

グループホームはなえくぼ江南
江南市小机町長者毛西132番地
(0587) 52-3808

はなえくぼのホームページ
www.gh-hanaekubo.com
ブログも時々更新しています